

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	通信会社（営業 担当）	来客数の動き	・スマートフォンの新機種が発売により、興味のある客の来店が増え、販売も増加している。また、買い控えていた客が購入に踏み切る様子が多く見受けられた。
(北陸)	やや良く なっている	百貨店（営業担 当）	お客様の様子	・今までと違うもっとも顕著な例としては、絵画などの美術品の動きがようやく活発化してきた。一つの景気のパロメーターとなると、不要不急のものという必需品の対極にある商材である。このようなちょっとした高額品が、今動いてきているというのが、少し明るい気がしている。
		百貨店（営業担 当）	お客様の様子	・北陸新幹線の開通に向けて、改装などリニューアルオープンしたショップが好調に推移しており、前年を上回っている。リニューアルしたショップの周りも、影響を受け好調に推移している。
		スーパー（総務 担当）	販売量の動き	・9月は残暑が少なく気温が下がったため、秋物衣料などの季節商材の販売が伸びた。
		家電量販店（店 長）	単価の動き	・前年より来客数は減っているが、省エネの意識は高く、商品単価が上がっている。
		その他小売 [ショッピング センター]	お客様の様子	・ようやく野菜相場高も落ち着き、新製品、スイーツ、旬もの提案など企画に対し購買反応も良く、食品中心に消費税増税の反動による影響がおさまった感じである。衣料、住まいの品も、前年より早く秋めいたおかげで秋物売上が上がってきた。店頭買上客数も回復傾向で、増税後は売上が毎月とも前年比で5%程度落ち込んでいたが、9月に入り2%台の落ち込みに留まった。
		高級レストラン （スタッフ）	販売量の動き	・法人接待や会合は相変わらず減少傾向にあるが、個人客の利用が伸びている。和食部門も悪くないが、特にステーキ部門は客単価が上がっていることもあり、売上は前年比120%で推移している。
		通信会社（役 員）	販売量の動き	・申込数が大幅に増えている。新サービスのエリア拡大やプロモーションが奏功していると考えられる。客の購買意欲も増してきているように感じる。
		住宅販売会社 （従業員）	お客様の様子	・消費税率が10%へ引上げとなる可能性もあり、土地や建物の購入を具体的に検討している人が増えている。
変わらない		商店街（代表 者）	お客様の様子	・朝夕の温度差が、例年より大きいため、いつもより早くアウターなどの秋冬商材が出ているが、薄手の初秋物の買上が少ない。
		一般小売店 [精 肉]（店長）	来客数の動き	・8月のように天候に左右されることはなかったが、売出など、めりはりのある来客数があったと思う。何もなかった時は来客数も少なかった。
		一般小売店 [鮮 魚]（従業員）	お客様の様子	・一部の取引先は、以前にも増して忙しくなっている。
		百貨店（売場主 任）	お客様の様子	・天候に左右されているところが若干あるが、客層によって変化がでてきている。30～40代の高額所得者の購買意欲は高まっているが、50～60代の標準的顧客の消費に対する価値観が変化してめりはり型になっており、使う総額は変わらないが、機能のいいものや自分の価値観に合うものは高くても購入するようになってきている。
		スーパー（店 長）	販売量の動き	・客の買物状況をみても、販売量が増加していない状況である。特売セール品の品であっても、以前よりも点数的にも変わっていないのが現状である。
		スーパー（総務 担当）	販売量の動き	・一部商品の値上げが続き1点単価が上がっている中、販売量は前年並みの状況が続いている。
		コンビニ（店 長）	それ以外	・コンビニ業界でここまで出店が増えると、競合店が近くにできなくてもほぼ全店で前年割れしている。県内のチェーンの平均前年割れ率は4%程度なのに対し、2～3%しか前年割れしていないことから、変わらないと回答した。チェーン平均以上に競合店ができていない店舗なども併せてのチェーン平均なので、競合店が出店していない当店で考えた場合、変わらないが妥当である。
		コンビニ（店舗 管理）	販売量の動き	・増税後、缶ビール類の売上が前年を大きく割れて推移している。価格の安いドラッグストア等へ流れていると予想する。

衣料品専門店 (経営者)	来客数の動き	・ 8月は長雨に泣き9月は好天で一息ついた。しかし、今に始まったことではないが、最低価格に集中している。財布のひもの固さは並大抵ではない。当店の店員に客の話ぶりを報告させているが、良い話はないと言っている。	
衣料品専門店 (総括)	販売量の動き	・ 気温の低下に伴い、男性向け商材の売上は回復傾向にあるが、女性向けは回復の兆しが見えない。	
乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・ 受注量がここ3か月くらいは低調で、前年を下回る状況が続いている。今月も同様で、なかなか良い兆しが見えない。	
乗用車販売店 (経理担当)	販売量の動き	・ 9月の販売量は前年同月比90%である。今年6月の販売量は前年同月比85%と、3か月前との比較ではやや上向きだが、消費需要の回復はまだ鈍いと感じられる。	
住関連専門店 (店員)	来客数の動き	・ 耐久消費財は例年、9月を境に動きが活発になってくるが、3か月前と比較しても、売上から割り出す歩留り等に関してはさほど伸びが見られない。来客数も大きな改善傾向にはない。	
その他専門店 [酒] (経営者)	来客数の動き	・ 来店する客が大変少なかった。しかし、様々な行事があったことから、売上はなんとかカバーできて、プラスマイナスゼロといったところである。	
その他小売 [ショッピングセンター] (統括)	販売量の動き	・ 消費税増税後の来客数減少は落ち着き、来客数はここに来て前年程度までに回復している。ただし、消費者の財布のひものは固く、販売量は前年と比べるとまだ低い。特に衣料品、宝飾品や靴鞆などの服装品の苦戦が続く。	
観光型旅館 (経営者)	販売量の動き	・ 9月は大型団体の取入れがあり、前年より約2千万円の売上増が見込める。	
都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・ 部門別の売上をみると、宿泊部門では円安で外国人旅行者が増え、売上も増加している。レストランは前年並み、宴会は大型宴会が減少し前年割れである。この傾向は当面続くと考えている。	
都市型ホテル (役員)	販売量の動き	・ 9月は宴会の特需があるが、全体としては景気動向は変わらない。	
旅行代理店 (従業員)	お客様の様子	・ 夏商戦も終わり、消費税増税前の契約分も終了した。秋から冬へ向けての出足が前年同期比と比較すると悪い。客の財布のひものが締まってきた。	
タクシー運転手	来客数の動き	・ 今月は当地の場合、市議会議員補欠選挙、県議会補欠選挙、市長選挙があり、トリプル選挙となる関係で夜の街は人出が少ない状態になり、あまり良くない。	
通信会社 (役員)	販売量の動き	・ 5月より開始した高速通信サービスの利用者は着実に増加しているが、一方で大手通信事業者との競合も厳しさを増しており、全体で見れば契約数はほぼ横ばいで推移している。	
住宅販売会社 (従業員)	来客数の動き	・ 来客数は8月に底を打ったと思われる。9月に入り徐々に回復の兆しが見られるが、このまま推移するかは不透明である。家計の収入もアベノミクスの恩恵はないように思われる。実際、今年に入ってから客とのやり取りからも懐が豊かになったという印象はない。	
住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・ 消費税増税の駆け込みがあった前年と違い、契約件数は例年の2割程度少ない。	
住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・ 周りの状況から見ると決して景気は好転していないが、消費税率アップも見込まれる中、展示会などの来客数は多い。また、9月の受注状況も好調であった。ほかに大きな要因も考えられないので税率変更後はかなり厳しいと思われ、先食い感が強い。	
やや悪くなっている	商店街 (代表者)	お客様の様子	・ アベノミクスに対する期待が最近薄らいでいる。消費税増税や、夏場の天候不順で小売業が主である当商店街では、売上の力強さがなくなってきた。客も必要なものしか買わないようになってきている。
	一般小売店 [書籍] (従業員)	販売量の動き	・ 客は、まとめ買いなども少なく、商品を厳選し必要なものだけ購入している。
	百貨店 (営業担当)	お客様の様子	・ 販売員の接客スキルにも問題があると思うが、当店のクラブカードのダブルポイント期間の販売に依存しすぎて、優待以外の集客、売上が大変落ち込んでいる状況である。

	スーパー（統括）	来客数の動き	・3か月前からということだが、昨年の今頃から底打ち感がみえて、来客数は徐々に伸びてきた。4月には消費税増税の影響で若干下がったが、3か月前も順調に伸びている中で、9月中旬以降天候と気温の関係などもあり、多少上げどまりになってきているという状況である。	
	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・客単価は前年同月比100%ぐらいで推移しているが、客数の落ち込みが大きい。また、たばこの売上が値上げ以降戻ってきておらず、大きく落ち込んでいる。コーヒーなどは調子が良いが、来客数増までにはなかなか結びついていない。	
	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・8月末に、また近隣に競合店がオープンして、ついに業界3大チェーンが競い合う形になった。予想していたよりも健闘はしているが、悪くなっていることは間違いない。	
	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・消費税増税による商品の実質的な値上がりで円安による物価高は、実賃賃金を押し下げているので、客は消費に対してますます慎重にならざるを得ない。	
	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・婦人衣料について売上の前年割れが続いており、好転する兆しが全くない。先行きは不透明である。	
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車、中古車ともに、売上が落ち込んできている。週末の来客数も少ない。	
	乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・消費税増税の影響が継続しているのか、業界全体で売上が登録車で前年比10%程度の減少、軽自動車では同30%ほどの減少となっている。当社においても新車販売では20%ほど前年を下回っている。車検、钣金での売上も前年より減少しており、大変厳しい状況である。	
	自動車備品販売店（従業員）	来客数の動き	・9月は半期決算月で、例年以上の販促を投下したが、依然来客数の回復には至っておらず、単価は若干の向上が見られるが売上の的には前年には届かない状況である。客からも厳しい声が寄せられる。	
	一般レストラン（店長）	来客数の動き	・特に平日の客足が悪い。	
	一般レストラン（統括）	競争相手の様子	・外食各社において、食肉関係、生鮮野菜の仕入価格が高騰中であるが、メニュー売価に転嫁ができず、利益が圧迫されている状況が進んでいる。	
	観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・前年比で総売上88.2%、宿泊人数85.6%、宿泊単価107.7%であった。当月の伸びは前年の50%と低迷している。前年は募集団体の催行率が高かったが、今年は消費税の影響、高速道路通行料の割引縮小、ガソリン等の燃料の高騰、台風の影響が出ている。	
	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・期待していた個人客が、全く戻ってきていない。近場のイベントには大勢人が集まっているが、売上アップにはつながらない。	
	タクシー運転手 その他レジャー施設（職員）	販売量の動き お客様の様子	・週末の、繁華街からの客の利用が少ない。 ・退会者数が増え、入会者数を上回った。	
	美容室（経営者）	来客数の動き	・来客数が前年の水準に届かない。当業界全体が同じ傾向である。	
悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・前年は残暑が厳しく秋冬物の動きが悪かったため、前年と比べて売上が良い店が多いようだが、勢いが全くない。消費税増税で外税表示の店が多くなり、レジで予想以上の金額に驚くといった客がここに来て目につくようになってきた。	
	スナック（経営者）	来客数の動き	・月末になりやっと動きがあったが、悪かった8月よりも更に若干マイナスとなった。一部の経営者やタクシーの運転手も、お盆以降悪いとささやいており、最悪の状態である。	
	テーマパーク（職員）	来客数の動き	・前年同月比で、9月は10%を超える利用者減となっている。内訳をみると国内の一般団体や、インバウンド客の落ち込みが大きくなっている。団体については、国内企業の法人利用を含め、ここにきて極端に予約が落ち込んできている。インバウンドもバスの値上がりなどがあり、当地域では全体的に団体での利用が落ち込んでいるように思われる。	
企業動向関連	良くなっている	一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・8月は季節要因で受注量が落ちたが、9月に入り欧米、国内とも受注が回復している。
(北陸)	やや良くなっている	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注に安定感が増し、前年同月比も数量がアップしている。

		建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・工事の見積依頼が依然多いが、受注能力いっぱいの受注量を抱え、身動きができない状態がしばらく続いている。
変わらない		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・現在の受注状況からみると、低位安定をしているところである。
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注状況は横ばいである。
		精密機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費税増税後、百貨店等一部のルートを除いた地方の一般店などで、特に高価格帯商品の販売量は意外と回復に時間がかかっている状況である。
		建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・官庁工事の受注は、受注量、受注価格とも先月と同様に順調である。
		輸送業（配車担当）	取引先の様子	・円安による、原材料のコストが価格に反映され、消費が落ち込んでいるように感じられる。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・欲しいものは少し高くても購入するが、普通の商品は相変わらず少しでも安くというマインドに変化はなく、引き続き個人消費が今一つ停滞している様子で、売上が増加していかない。また、仕入コストや運送コストなどの上昇圧力は高まってきているが、それを転嫁できる情勢にまだなっていない。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・百貨店の売上などで前年比での伸び悩みが出るなど、消費関連が一服している一方で、設備投資などで前向きな姿勢も見られ、きつ抗している。
やや悪くなっている		食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・9月から規格変更を主とした実質値上げを実施した。その影響もあってか10%程度の販売量の減少が見られる。また、販売品目の構成の変化が見受けられる。高付加価値商材の販売量が減少し、100円均一などの低価格商材の販売量が前年同水準あるいは前年比微増という状況である。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・消費税率引き上げの影響が6月までは出ていたが、7月以降なくなり、3か月前と比べると売上が落ちてきている。
		新聞販売店〔広告〕（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・6月以降、売上が前年比で減少となる状況が4か月続いている。
		司法書士	取引先の様子	・会社の解散、全従業員の辞任等、清算のための商業登記案件が多い。
	税理士（所長）	取引先の様子	・今は円安だが、客の製造業の生産設備の海外への移転があまり止まらない。ひとつは日本の電気代が高いのと、日本ですぐに労働者が集まらないという難点がある。少子高齢化の問題がある。今は円安でもマイナスの効果しか出ていない。物価が上がってくると思うが、物価が上がるのに対して賃金がそれほど上がっていない。消費税と円安で、ダブルで家計が圧迫されている状況であり、消費は厳しいのではないと思う。	
悪くなっている		不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業者からいろいろ聞いているが、あまり客がいなく、客の動きが止まっているという声が多かったことから、状況は悪くなっている。
雇用関連 (北陸)	良くなっている	—	—	—
	やや良くなっている	—	—	—
	変わらない	人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・景況の不透明により企業では人員拡充する声は少ない。欠員補充要員として、即戦力者を要望されるので、マッチングが厳しい。
		人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・ここ最近、20～30代前半の営業職、販売職の求人において、未経験でも構わないとする案件も多くみられる。
		求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・3か月前と比べて、求人数はほぼ横ばいである。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は変わらず増加傾向が続いている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・ここ3か月の求人数が2700人前後でほぼ横ばいであるため、状況は変わっていない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は横ばい状態にある。製造業においては増加しているが業種間にバラツキがあり、安定しているとはいえない。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・人材紹介の受注数は横ばい状態が続いている。登録希望者も少なく、マッチングは厳しい。
学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・状況には特に変化はみられない。		

やや悪く なっている	新聞社〔求人広告〕（役員）	求人数の動き	・ 9月の求人広告売上は、前年同月の5割に届いていない。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・ 求人広告の件数、売上額が3か月前と比べて落ち込んだ。前年同時期と比べてもマイナスとなり、求人市場は一服した感がある。
悪く なっている	—	—	—